

公表

事業所における自己評価総括表 【みらい工房ひまわり】

○事業所名	みらい工房ひまわり			
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 6日 ～ 令和7年 2月 28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数)	18名
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 6日 ～ 令和7年 2月 28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 17日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員が外部や内部研修を受講する機会や法人内等で研修に参加できる機会が確保されている	<ul style="list-style-type: none"> ●毎月第4土曜日に法人研修が開催され、研修機会の確保に努めている ●研修委員会が中心となり、外部の研修または協議会へも積極的に参加している 	<ul style="list-style-type: none"> ●正社員以外の職員に対して研修する場が設けられると良いが、勤務時間にバラつきがあり難しい
2	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されている	<ul style="list-style-type: none"> ●6種類（運動・制作・手遊び・レク・おたのしみおやつ・読み聞かせ）日替わりの活動を提供している ●月案を作成し、できる限り活動が被らないように割り振っている 	<ul style="list-style-type: none"> ●全体活動だけでなく、個に着眼した自立課題活動などがあると幅が広がる
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ●ロッカーや下駄箱等に絵カードを貼り、わかりやすくしている。また、ホワイトボードに時計や活動の絵カードを掲示し、見通しが持ちやすくしている ●テレビやお絵描き、おもちゃの種類、あるいはご利用の特性によって空間を仕切っている 	<ul style="list-style-type: none"> ●小1～高3までの幅広い年代がご利用されているため、年代ごとに仕切ったり、活動を展開できると良い

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会が少ない	<ul style="list-style-type: none"> ●スタッフやご利用者の人数が多く、大人数が入るスペースが確保できない ●障がい特性上、他の場所への移動が困難な方もいるのでそうした方への支援体制等を考慮すると難しい ●交流する目的・内容を明確化し、厳密に打合せする必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> ●他機関以前に、同じ法人内同士での交流する場がないので設けていく ●緑区基幹相談支援センターに「サードスペースみらい」という交流スペースが開設したので、人数を絞りながら他機関・地域の方との交流を行っていく
2	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等は行っていない	<ul style="list-style-type: none"> ●面談を通して家族支援は行っているものの、ペアレント・トレーニング等の研修は行っていない 	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者よりそうしたニーズが無いのも現状であるが、今後そうした要望があれば実施を検討していく
3			